

# 芦安ファンクラブ通信

第25号  
秋号

NPO法人  
芦安ファンクラブ  
南アルプス市芦安  
芦倉1589-8  
事務局：(大滝)  
055-288-2531

## 国土地理院へ行ってきました

なんとも、観光地のお土産のタイトルに必ず見つける「行ってききました」シリーズのようではあるが、北岳の三角点の復旧測量作業で、関東測量部の皆さんと旧知の間柄となった私たちは、誰はばかることなく、「国土地理院の研修」と称して、つくば市の国土地理院まで行ってきたのである。

思い起こすと、北岳の標高を改訂したことがきっかけで、国土地理院との交流が始まり、平成十七年六月から十一月の間、伊能忠敬園と南アルプスの測量・地図点<sup>①</sup>が南アルプス市芦安山岳館で開催されたことは記憶に新しい。これを契機にやせほそった北岳の三角点の復旧の話が現実化し、三角点の低下改埋作業を終えて芦安に戻ったとき、「次は国土地理院へ」が決まったのである。

百二年ぶりに行われたこの偉業を終え、芦安に着いた会員の誰もが、「楽しかった」「いやあ、よかった」「この作業に参加できてうれしい」と口々に言い、満面の笑顔で充実感に酔っていたのだと思う。あくびれもなく、「次は国土地理院へいこう。ついでに日本百名山の筑波山にも登ってこよう」が決まったのだから。

国土地理院へは、芦安ファンクラブの会員でもあり、山小屋の管理人たち

が、山から下りてくる十一月十七日・十八日と決まった。古くは知らないが、私が会員となって初めての、登山を主たる目的としない一泊二日のバスツアーである。



GPS連続観測システムについての研修

関東測量部の小暮さんが、私たちの研修旅行の窓口となり、研修内容の検討や調整など引き受けてくださることになった。こちらを早朝出発して、研修時間は午後一時から4時ごろまでと伝えたとこころ、分刻みの日程表が送られてきた。「細かな地形図を書いたり、測量をするだけあって、さすが！」と

感服したが、その中には、国土地理院幹部との表敬も含まれていたのである。国土地理院と芦安ファンクラブがともに汗を流して行った北岳三角点低下改埋作業はまさに「協働」の姿である。

「協働」とは、行政とNPO、行政と市民などとの間で目標を共有し、ともに力を合わせて活動していこうという取り組みをいい、まちづくりの取り組みに不可欠なものとして唱えられている。

例えば、地域の課題解決に向けて、行政単独では解決できない問題がある場合、または市民だけでは解決できない問題などがある場合に、相互にお互いの不足を補い合い、ともに協力して課題解決に向けた取り組みをする。

体験的に地元の山を熟知し、南アルプス北部の自然環境の保護と活用等主体的に活動している芦安ファンクラブと、国土の位置基準や地理情報の整備を行う国土地理院がそれぞれの役割を補完しあい、ともに力を合わせた素晴らしい活動であったことが評価されている。

北岳は私たちにとって特別な山である。北岳のことならどんなこともいとわれないと考えている会員も多い。この北岳の、しかも山のシンボルである三角点の低下改埋作業に携わることができると、誰もが快く志願し、労を惜しまないだろう。協働などと大げさなものではなく、「あたりまえのこと」と考えている会員も多い。

その意を汲み、国土地理院をあげて歓迎してくれたことは大変うれしい。研修旅行は二日間を通して天候にも恵まれた。次々にバスに乗り込んでく

る会員は子どものように無邪気な表情をしている。春と秋の登山教室や観覧会、ツアーガイドなどさまざまな事業はあっても、会員だけの登山や旅行はない。こんな表情や会話を聞いているとたまには、会員限定版もいいものだと思う。花岡会長を筆頭に総勢十四名である。



新地図作成システム NTISを学ぶ

予想に反して、午前中に国土地理院に到着すると、玄関前で正春関東測量部長と窓口役の同測量部の小暮さんが出迎えてくれた。早速、「測量と地図の科学館」に案内され、国土地理院の業務をビデオで拝見し、展示室へと歩を進めた。

昼食を挟んで午後から、前述の国土地理院幹部の表敬、さらに「新地図作成システム NTIS (NTISと

は地図を更新するためのパソコンシステムをいっただそつだ。私にとつて、国土地理院イコール二万五千分の一の地形図を連想するが、最も馴染み深いこの二万五千分の一の地形図の作成に ついての研修である。航空機を利用して写真測量を行い、空中写真を用いて 河川、道路、建物、植生等の地物や地 形の測定、判読、調査を行い、さらに デジタル編集をして、地形図の完成に 結び付けているのだそつだ。馴染み深 い地形図のことなので、なるほどと思 っ。



研修会場を移しての研修。電子基準点 を用いて地殻の変動等を検出するシス テムについて学習する。土地条件図や 詳細な地形データを整備し、さらに地 殻変動を観測し、災害対応等に必要 な地理情報の把握をしているという。 さらに構内へ移動。遠くから国土地 理院の目印となっている大きなおわん を天空に向けている巨大なパラボナア ンテナ(正式にはVLEBIアンテナと いうのだそつだ)について、研修する。 見学者の私たちのために、ぐるっと百

八十度回転して観測の様子を 教えてくださった。雨が溜ま らないですか。など素朴な 質問も続出。宇宙の果てから 届くかすかな信号をこの大き な耳が捉え、地球変動を精密 に監視している。国際社会と 連携しながらこのシステムが 稼動していることに、「へええー」と感心することしきり。 夕暮れ近くなり、本日の研修 はこれで終了。国土地理院は、 私たちに特別メニューを提供 してくださったわけではなく、 申込団体があれば対応してく れると伺った。

国土地理院の仕事は、現代社会を支 える縁の下の力持ちなのだと感じた。 「国土地理院の皆様、ご苦労様です」 翌日は、関東測量部吉池課長と芝 原さんに案内していただいて、筑波山 へ登った。

芦安ファンクラブ 杉山啓 記

次は、「電子国土webシステム」に ついて。こんな便利なシステムをwe b上に公開していたなんて知らなかつ た! 仕事柄、みんなで合意形成しな がら、「地域の防犯・防災マップ」を作 っていく作業に使えと、内心思わぬ 拾い物をしたと喜んだ。 さらに、研修は続く。次は、GPS 連続観測システムについて。国土地理 院宇宙測地館インフォメーション室に

### 紅葉祭り金山沢公園で実施 芦安ファンクラブ特製 紅葉味噌 まんじゅう大いに売れる

第4回芦安紅葉まつりで製二〇〇六年 十一月四日、五日にかけて、恒例の味 噌まんじゅう製造販売を芦安ファンク ラブ会員の有志一同(暇な人が集まり) 楽しみながら、少し苦労して、少し考 え、紅葉まつりに協力、参加しました。 今年も、和菓子さんの清月さんの協力のも と清月さんの工場をかりてまんじゅう 作りの講習を受けながら作ったので有 志一同、暇な人が作ったとは思えない、 見るからに立派な味噌まんじゅうが完 成しました。(約六百個)また、試験的 におしるこも作り販売しました。翌日 5日の紅葉まつり当日は、天気もよく、 例年以上に人出が多かったようです。



ファンクラブ会員も飛び入り参加のフォークダンス



見事な出来ばえの味噌まんじゅう

まんじゅう、おしるこの販売は芦安フ アンクラブのきれいな、お姉さん方が 一生懸命販売してくれました。結果は ほとんど完売し、過去最高の売上にな りました。きれいなお姉さん、ご苦労 様でした。来年も今年以上に、きれい になつてお願いします。

今年の味噌まんじゅうは、お客さんには好評でしたが、今後の課題も残りま した。原材料の品質、まんじゅうの作 り方、地元の材料を使う、等 これか らも勉強しながら造り続け、芦安紅葉 味噌まんじゅうが芦安のブランド商品 になるよう、皆さんこれからも協力よ るしくお願いいたします。また、この 芦安紅葉まつりが、芦安、南アルプス 市メインの祭りになるよう、皆さんと 一緒に頑張っていきたいと思ひます。

芦安ファンクラブ 伊東隆記

## ドノコヤ峠登山入り口の整備

九月二十四日、秋晴れの日、私達は六名でドノコヤ峠入り口にハシゴを架け新しい迂回登山道を作る作業を行った。今までの登山道の入り口は雨で道が流され危険な状態になったので手前の急斜面にハシゴを掛けたり尾根に山道を作ることになった。八時に現場に着き清水さんより今日の作業の段取りを聞いた。チェンソー以外はすべて人力になった。まず二本の丸太をチェンソーで切り揃え平らな所に置く。まだ生状態の木はかなり重かった。まず(4)初めにハシゴの足をかける横棒を縛る所に下になれないようにナタで切り込みを入れないし、慣れてくるころには腕の力が入らなくなつた。今日の作業はかなりハードになりそうなる予感がした。切り込みを付けた木を二本共山の急斜面に立てかけ、次に横棒を縛る作業、シノという道具を使い番線に縛る、一本づつ取り付けて上に登る。足場は悪く、力を入れなければ固く縛れない初めての作業なので苦労した。作業中に男性の登山者が一人でドノコヤ峠に登るのを見かけ皆で気をつけて登るようと声をかけた。利用者がいるのは管理している者にとってはうれしいものだ。ハシゴ作りの作業はまだ続いた。一本目のハシゴを架け終え次に一本目のハシゴ作り、斜面もきつくなり、高度もだんだん高くなつてきた。そんな時、清水さんから北岳の八本歯の所にハシゴを架ける話を聞いた。三〇〇〇mの高い所。今日の作業よりもっと大変だろうと思った。皆が安全に山に登れるのも登山道を整備する人達がいるから登れることを感謝したい。二本目のハシゴを架け終え昼食になった。昼食の時、今朝ドノコヤ峠に登った男性が帰って来た。鉾山までは行かず峠の頂上

まで行って来たそう。登山道は、危険な所にはロープが張ってあり整備が行き届いているとほめてくれた。私は今までファンクラブの人達が力を合わせて作った登山道の整備なので嬉しかった。午後の作業は右側の尾根から左側の尾根に行く横道を作る作業になった。二本の倒木をチェンソーで整形し使う。一本の木が沢に落ちた。皆で力を合わせロープで引き上げる。足場は悪く、回りには立木がありうまく方向を変える事ができず悪戦苦闘した。横木が下に落ちないように太いクイを作り、斜面にクイを打ちそのクイに木を縛り木と木のすき間に細い枝と木の葉を入れその上に土をかぶせ横道を作った。片棧橋と言うそうだ。やっと左側の尾根に道がついた。まだ急な斜面があつたので、次に階段を作った。クイを二本打ち横に土留めの横木を入れ縛り一段づつ作った。最後に回りのやぶを刈り、横道の所を上からロープを張り今日の作業はやっと終わりになった。時間は午後四時。

私の足はふらふらになった。皆さん御苦労様でした。清水さんの指導に感謝です。まだ山の事は初心者なのでこれからもう少し覚えていきたい。ドノコヤ峠に登る人達の無事な登山を祈ります。 芦安ファンクラブ 依田 正記



仕上がった梯子の上で満足そうな面々

## 間くつこころよる

「金峯山は修験道の聖地である奈良吉野金峯山信仰を甲州に請来し、平安時代から修験登山が行われ、室町期より江戸期にかけて修験者、登拝者たちの登山が盛んになった歴史ある山である」と言う。「甲斐国誌」には州の北鎮、十ヶ所の登拝口がありそれぞれ修験者の拠点になった里宮(金桜神社)があり、本宮が山頂にそびえる奇岩・五丈岩(修験道本尊の蔵王権現が祀られている)、これ勅景なり。

今夏期には金峯山登拝修行の機会に恵まれ、往古の表参道登拝を体験しました。先ずは牧丘町袖口の金桜神社で経を挙げ出発し、大池峠に向かう途中の登山口から水晶峠分岐まで下り、これから御室小屋跡地に至り、これより頂上の五丈岩に向かつて直登する迫力ある素晴らしいコースでありました。

途中の樹林帯ではアズマシヤクナゲやミツバツツジの咲く中で奇岩が天を突き上げておりハシゴ、クサリ場の急登が修験の道をむき出していました、苦しい中で「慙愧懺悔六根清浄(ザンギザンゲロツコンシヨウジヨウ)」と念仏を唱えると、なぜか息づかいも和らぐような感覚になり、これが修験の境地かと実感しました。

樹林帯から抜け出すと平岩、片手回し岩、聖岩、天狗岩と称する奇岩が取り囲む中に頂上の五丈岩がそびえ立ち、見たせば眼下に甲斐の山並みが現れて、これが極楽浄土の場面かな?とおもわざるを得ない絶景に出逢い、「度肝を抜かれた」と

はこのような時に使う言葉なのか、と悟りました。

頂上の五丈岩(蔵王権現)にて法楽を挙げた後に大池峠に向かつて下山する途中では、しらびそ林の湿地帯にコケ・シダ類の緑床から身の丈一寸から二寸で等間隔に白く可憐に咲くバイカオウレン(梅花黄蓮)と出逢いました。この花は昔から胃腸薬として使われていたオウレンの仲間で、花が梅の様に見えることから、つけられた名前だと言う。観察すると二十から三十センチ間隔に咲く様は、互いに隣を気遣いあつて湿地帯の養分を平等に享受している植物の世界を覗き観る事が出来ました。

人間界もこのように隣人を気遣いあつて地域社会の恩恵を享受し、共に白く清楚に咲きはこりたいものだ!と金峯山登拝修行から学びました。

芦安ファンクラブ 渡辺典美



第10回甲州百名山登拝修行の様子

# 一〇・十五 初の身障者 紅葉狩りバスツアー実施

十月中旬とは思えない穏やかで暖かい陽射しを受けながら、山梨交通の協力で広河原行き貸切バスが出発した。通所授産施設「ワークムスみどりの家」の利用者さん(十二名)に、美しい南アルプスの紅葉を満喫してもらおうという、ファンクラブ初めての事業である。車中は、出発早々周囲の景色を見ながら賑やかである。昔、懐かしい遠足バスの雰囲気だ。夜叉神のゲートを抜け、長いトンネルに入ると、「キヤキヤ」と大騒ぎ。道が悪くバスが大きく揺れる。これまた大喜び?の声がある。トンネルを抜け、左手に北岳から間ノ岳の稜線が澄んだ青空の中にきれいに見える。車窓からでは物足りず、急ぎよ予定外だが御野立てに停車し車外に出て景色を見る。工事作業用のブルドーザーと看板が景色の邪魔をしていたけれど、隙間からカメラ持参の人は写真を撮ったり、双眼鏡のある人は覗いたりと各々に過ごす。車イスのKさんも職員の小川さんの介助でバスから降りてくる。



絶好の紅葉日和になった。きのこ入りトン汁にみんなご機嫌



すばらしい自然にやや興奮気味

途中下車もあり予定より少々遅れて一時五〇分に広河原へバス到着。メンバーの奥山さんと依田さんが手を振り迎えに出てくれた。バスの停車場から広河原山荘までは、少し距離があり心配したけれど、山の美しさに気を取られてワイワイお喋りしながらどんどん歩く。つり橋も全く平気で広河原山荘前の河原に無事到着。先発隊メンバーがすでに設営や昼食に振舞う豚汁を準備万端に整えてある。「お腹すいた」といつ多数の声で、全員が自己紹介が済むとさっそく昼食。メンバーが用意した豚汁を配る。豚汁に入れられた数種類のキノコは、メンバーの准一さんが昨日芦安で採った地元産。豚汁がおにぎりにマッチしてつまい。また、それぞれが持参した炊き込みキノコおむすびやポテトサラダ、漬物、くだものが次々とまわってきて豪華な昼食会となった。青空の下、広河原の紅葉を見ながら会話をしむゆつくりとした昼食。とつてもリッチなひとときだった。その後、早川尾根の山名や野呂川についての「青空教室」が望月さん准一さんを講師におこなわれた。



リフト車を配車してくれた企業局や山梨交通の配慮にも感謝です

時間の経つのは早い。十三時四〇分、全員協力して後片付けをすませ、北沢峠行きのバス発着所へ急ぐ。南アルプス市企業局の協力で、車イス昇降機が装備された貸切バスに乗車。十四時十五分北沢峠に向かつて出発。広河原から先は紅葉の色つきが一段と濃くなり素晴らしい。深く急峻な野呂川の渓谷と滝をもみじ、なかなかまど、やまどこの紅葉が鮮やかに飾っている。ピュールポイントは運転手さんもゆつくりと走ってくれる。そして、野呂川出合を過ぎ少し行くと、雪をかぶった様な真っ白い花崗岩の摩利支天と甲斐駒ヶ岳の頂上が見え「わー」と歓声があがる。あつといつ間に北沢峠に着きトイレ休憩。「こんな好天はめずらしい」と長野県側の大平まで行き、鋸岳の向こうに北アルプスの山々を見てウタ

インして引き返す。先程歓声があがった野呂川出合の手前で降車をして、摩利支天と甲斐駒ヶ岳をバックに全員で記念撮影をする。楽しさは尽きないが帰りの芦安行きの出発時間があるため、夕陽に照らされる紅葉に別れを惜しみつつ広河原へ出発。  
広河原で待機してしてくれた、山梨交通のバスに乗り換え、予定通りの時間に無事芦安市営駐車場に到着する。行き帰りと長い乗車時間であったが、疲れた様子も見せずにとっても楽しかったと異口同音に参加者の方々から言われたのが印象的だった。また、後日宮下さんや准一さんの写真を「ワークムスみどりの家」に届けた際も、施設長さんを始め職員のみなさんから、利用者さんが帰宅後地図を見たら、遠くまで出かけたこととびびりしたと言っていたとか本人たちだけでなく、家族の方も喜んでいて等々この事業に取組んだ芦安ファンクラブの御礼の言葉をいただいた。  
美しい南アルプスの自然を、市内で生活する人、誰にでも知ってもらおうといつ主旨で企画したこの事業は、ファンクラブメンバーのチームワークと好天に支えられて無事成功したと思う。また、来年度に向けて活動の範囲が広がった事業であった様にも感じている。メンバーの皆様ご苦労様でした。

芦安ファンクラブ 杉山弘 記

